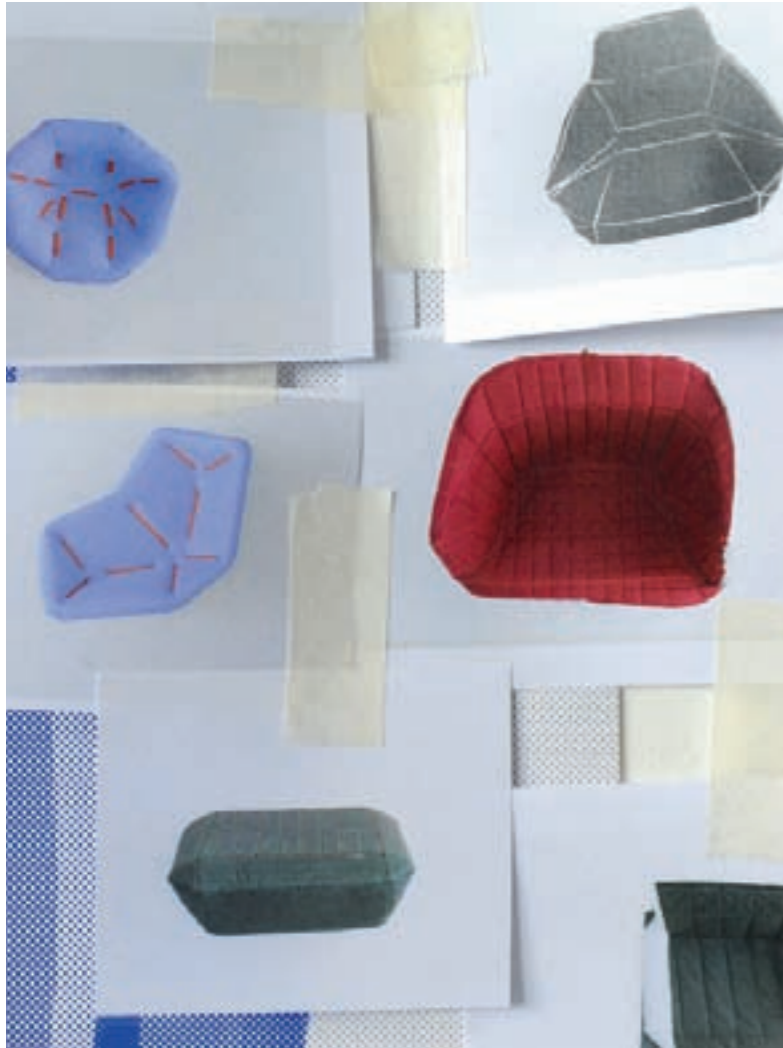


Ronan & Erwan Bouroullec

ブルムはその独自のシェイプによって、とても魅力的で、どんなポジションでもリラックスできる優れた快適さを提供します。



Ronan & Erwan Bouroullec on their latest creation for Ligne Roset: the **Ploum** sofa.



Initial sketches for the model Facett.

私たちのデザインは
小型のプロトタイプを
ベースにして、様々な
ミニチュアモデルに基
づいて制作しています。

コンスタンス・ルビニ (以後、CR): ミッシェル・ロゼ氏との出会いは?

Erwan Bouroullec: エルワン・ブルレック (以後、EB): 10年ほど前、アウトドア (2001) というチェアをデザインした時に会いました。

CR: そのチェアのデザインは革新的な、フォールディング (折り畳む) タイプで、フレキシブルな、カーブしたヒンジが付いていたんですね。

EB: はい、花びらのように開けることができました。それと、閉まった形では、とてもフラットになることも特徴でした。

CR: ミッシェル・ロゼは、そのデザインに大変興味を持ったと聞いています。製造するには、特に縫い目を正確に縫製する技術が要求されるため、その技術を持つロゼ社にとって一つの強みであったためでしょう。

Ronan Bouroullec: はい、そうです。このチェアの成功はすべてヒンジの仕上げにかかっており、それが上手にできたことでファブリックにシワが一つもありませんでした。その面ではロゼ社の経験は大変豊かです。縫製技術は優れていて、ファブリックもよく知っていますし、ウレタンフォームのエキスパートでもあります。これはロゼ社のたくさんの強みの中のほんの一部で、他のメーカーにない特徴です。

EB: アウトドアで使える家具のアイデアは、この商品をデザインしてからずっと興味を持ち続けたのです。このチェアには、品質のよいスポーツシューズと同じような特徴があります。耐久性、快適さ、ダイナミック、それと防水加工のファブリックでカバーされていることですが、今考えると、この商品は少しドライな感じがします。シェイプはミニチュアのプロトタイプを使ってデザインしました。座面と背の形はあまりにも特別で、2次元では表現できませんでした。縫製工程には、デザインに関して色々なニュアンスが入りますので、開発の途中で様々な小型のプロトタイプを作る必要があったのです。このアプローチは、この商品のデザインプロセスから生まれましたが、それから私たちのデザインの仕事に大変大きな影響を及ぼすようになりました。デザインを作るときは、手でスケッチを書いて、コンピューターで作成もしますが、デザインスケッチをミニチュアモデルと比較することは、私たちにとって不可欠な仕事になったのです。

CR: そして、アウトドア(2001)とファセット(2005)の間に、あなた方の仕事はどのように展開してきたのですか?

RB: アウトドアをデザインしたとき、ロゼ社のロボット稼働の縫製機械を発見しました。マットレスカバーのキルトが縫製機械にプログラムされていて、幅広い生地を縫製しているのに完璧でした。私たちは当時、この機械にはよりたくさんの可能性が秘められており、それを実用化すればとても高度な形状のものが作れるのではないかと思いついたのです。ファブリックは柔らかく見えてゆったり垂れるような、ごくありふれたスタイルとは違うものを目指したのです。最初の実験は紙を使って行い、自分の縫製マシンで様々なファブリックでトライしてみました。つまり、ファブリックを「形」にする努力をしたのです。この様々な実験を繰り返して、ミッシェル・ロゼ氏と打ち合わせしました。

EB: ファセットの誕生は、この時からスタートしました。そのアイデアはロゼ工場の特徴とその設備に基づいています。ファセットの独自のフォルムはロボット制御の縫製機械がなすような可能性から生まれたのです。言い換えれば、そのデザインは、ロゼ社の設備の新しい活用へと結び付いているのです。



The Bouroullec brothers in their studio.

RB: 当時は、ソファの製造方法を考え直す時期でもありました。実は、縫製は昔から縫子の仕事で、手仕事に基づいていました。私達は、この伝統的な方法とデジタルミシンの間にある縫製モデルを目指したのです。

CR: これは家具業界の中では、様々な議論を起こしたことには違いありません。現在は、「縫製」というのはいったいどのような意味

ソファをダイヤモンドのようにカットするとファセットになるのです。

を持つのでしょうか？それと、リーン・ロゼが提供する商品を作るのに、どのようなスキルが必要になるのでしょうか？アウトドア、ファセット、そして最新のブルムはそれぞれの縫製技術と完成工程は似ていても、それぞれ特殊な形が生まれています。しかも、あなた方は、どのモデルにも全く違うユニークなシェイプを与えたのですね。同じ出発点だと思うのですが…。

EB: これは私たちの仕事の中心的な課題です。似ている製造プロセスから、どのように個性のあるキャラクターのモデルを作り出せるのかと。ブルムにあたっては、快適さを重視したのです。極端な柔らかさから生まれる心地よさ、そして人間の体にとって一番座りやすいシェイプを作りたかったのです。

CR: それに比べると、ファセットはその幾何学的な構造としっかりした形によって、「快適さ」をあまり思い起こさないモデルです。ブルムは第一印象から、「快適さ」そのものを表現していると言ってもよいでしょう。

EB: そうです。ファセットはその縫い目によってファブリックに多少制限を与えたのです。ブルムでは深く考え、有機体に似た、もっと自由な形を作り出したかったのです。そのためにインスピレーションになったのは、ミッシェル・デュカロワの「トーゴ」でした。私達にとってロゼコレクションの中で一番興味深いモデルです。

RB: その通りです。デュカロワ氏はロゼ社のデザイナーとして、ロゼ社のアイデンティティと才能をよく理解し、特にウレタンフォームに関する製造能力をわかっていたのです。私達はロゼ社の成功は、ここが原点であると思っています。

EB: 私たちは、イッセイ・ミヤケのための「A'Poc」プティックをデザインしてから、ニット生地に興味を持っていたのです。彼のスタジオには、縫い目が一つもない「ワンピース」の生地で作られたドレスがありました。それから数年後、タイツと同じように伸びやすく絶対シワが寄らないニット生地を発見しました。この素材は私達にとって、とても魅力的でした。体をきれいに包んでくれたうえ、体の動きに絶対に逆らわず、そのポジションを自由に保つことができるからです。

RB: この伸びやすいニット生地をベースにして、リーン・ロゼで通常使っているウレタンフォームより、もっと柔らかいものを開発してもらうように要望しました。その結果、生地を完璧にフィットさせる、とても柔軟性に優れたウレタンフォームの開発をすることができました。ブルムの独自のシェイプは、このウレタンフォームとニット生地の組合せから生まれたのです。

EB: このソファに座ってみると、体を砂の上で転ばすような感じや、あるいはSACCOに座るような座り心地がしますが、ひとつ大

きな差があります。ウレタンフォームには形状を保つため、優れた復元力があるためどんな体型にもぴったりフィットさせることができるので、完全にリラックスすることができます。2人、3人で使うと近くに座ることになりますから、公共の場所よりご自宅をおすすめします。それから、繭の中に座っているような座り心地を与えてくれるため、親しい人と使うプライベートな部屋にも最適です。

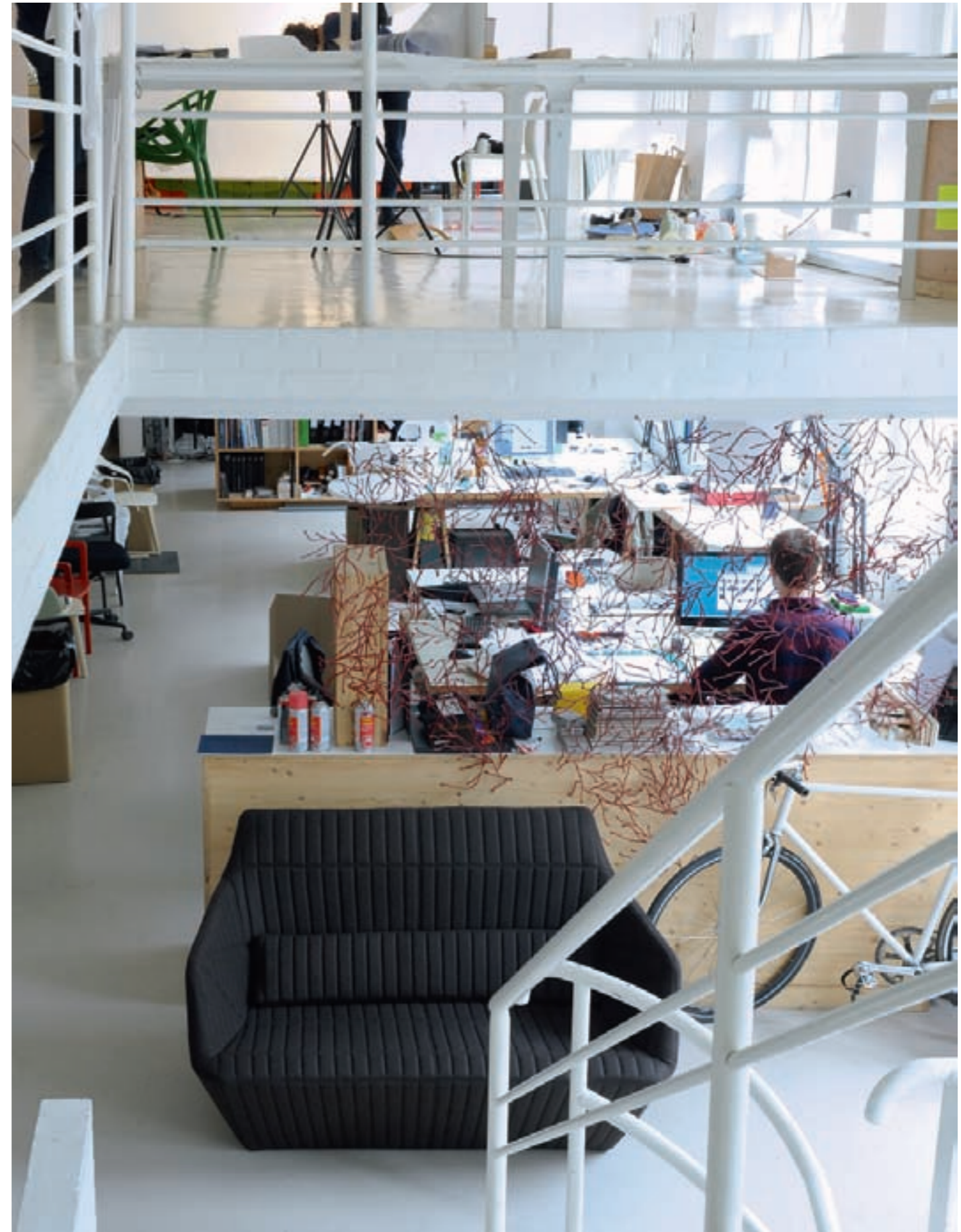
CR: 確かにそうです。とても良くまとまった形なので、座面と背がどこからなるのか全くわかりませんね。

EB: その通りです。固い部分はひとつもありません。形はまるでマジックのようです。生地はとてもフィットして、シワがひとつもなくストレッチします。とても抽象的で自由で有機体をイメージさせるソファです。Sir Henry Mooreや Jean Arpの彫刻に似ています。

CR: あなた方は、イタリア、ドイツなど様々な会社やブランドに協力しています。あなた方はリーン・ロゼは他のデザイン・ブランドと比べて、どこに特徴があるのでしょうか？

EB: 商品を、ほとんどサプライヤーのネットワークに製造してもらうイタリアのメーカーと違って、リーン・ロゼは自社の工場を持ち、製造プロセスを全てマスターしていることは、とても大きな差です。なお、リーン・ロゼの製品は、限られた客層を狙うイタリアの製品よりも、一般的な消費者に向けていて、その市場価値がありますから、完璧な品質を提供できるブランドだと思います。

RB: 私たちの商品が、リーン・ロゼの世界中に渡る流通網によって、できるだけ幅広く販売されているのは大変有意義なことです。それと、いうまでもなく、ウレタンフォームとアップホルスターリー分野で、リーン・ロゼの独自のノウハウがあります。これは、もちろんファセットとブルムの出発点にもなりました。どちらの商品も独自性はロゼ社の製造ノウハウから生まれたのです。



Going Outdoors



革新的な建築物、贅沢なマンション、広場、公園と遊歩道。それは、昔、港のクレーンが立っていた場所で、現在、ハンブルグ市の新しいハーフェンシティ（港の町）にあり、世界中で一番魅力的な海浜プロジェクトになっています。フレッシュなアーバンライフスタイル（都市生活）、そしてリーン・ロゼのアウトドア・コレクションを展示するのには理想的な場所となっています。

信じがたいことですが、ハンブルグ市のハーフェンシティのマゼラン・テラスでは毎週、日曜日の午後にタンゴを踊ることができます。ハーフェンシティは、ヨーロッパで一番野心的な都市改革のプログラムで、港とマリーナの間にあります。たった20年の間に6000戸のマンションと45,000件の雇用が、昔、海事のみに使われていた157ヘクタールの面積にできたのです。ハーフェンシティを通じて、ハンブルグはどのように新しいダイナミックな町を作ったのかを世界に見せてくれます。生活、仕事、買い物がすべて文化と科学に満ちている環境の中で行うことができます。エルベのフィルハーモニック・ホール（建築家：ヘルゾグ・ディ・メロン）と、新しい建築の大学のハーフェンシティ大学がその象徴となっています。

もうひとつの特徴は、広場、公園、遊歩道、そして河岸のアウトドア・ライフです。ハンブルグ市とその二つの湖、アウッセンアルスター湖とピンネンアルスター湖によって、様々な「水」と「アウトドア」が絡み合う空間ができています。ハーフェンシティは、「生活のクオリティの向上」をコンテンポラリーな形で表現します。港と河岸の空間を器用に生かしたコンセプトで大成功しています。数年間で数多くの河岸の遊歩道とストリートカフェが登場し、様々なイベントの舞台になっています。ハンブルグの住民が誇りに思うことは「オープン・エアのボールルーム」（戸外の舞踏室）で、大規模な催しからストリートアーティストまで、様々なイベントを楽しむために、毎週末に大勢の人々が集まります。



**Public spaces,
are the catalysts for urban life.**

ハーフェンシティーの中心に、タンゴを踊ることのできるマゼラン・テラスがあります。隣のマルコ・ポーロ・テラスもそうですが、どちらも人が集まり、リラックスするための理想的な場所です。このテラスは二人の偉大な航海士、ポルトガルのマゼラン、そしてイタリアのマルコ・ポーロを称えるために名付けられたために日差しが強い地中海の雰囲気と不思議な繋がりを感じることができます。そのハーフェンシティーのもっとも重要な二つの空間をデザインしたのは、スペインの建築事務所、BAMMP（アーキテクチャー・アソシエイツ・ディ・バルセロナ）でした。

同じ BAMMPにデザインされたサンドトール・パークも、2011年の春にオープンして以来、ハンブルグ市の住民に愛されています。来場者は、数多くのレストランとカフェ、そして、まるで自分の庭でもあるかのように草で覆われた小さい丘を楽しんでいます。

現在、「アーバン・ライフの中心になるパブリック・スペース（公共の空間）」のコンセプトは、ハンブルグ市で

は誰でも楽しむことができます。ハーフェンシティーでは様々なライフスタイルをエンジョイできますから、ハンブルグ市の住民のみではなく、様々なタイプのお客様、観光客を引きつける場所になったのです。ここではハンブルグ市のコンテンポラリーなエスプリを楽しむ体験することができます。ハンブルグ市の新聞でアーバンドプラットには、「ハンブルグは、年寄りのおばちゃんから若く魅力的な恋人に生まれ変わったのだ」という、少し皮肉的なコメントがありました。

そのため、ハーフェンシティーはリーン・ロゼの新しいアウトドア・コレクションを撮影するのに理想的な場所でした。さらに魅力的なのは、独自のアーキテクチャーとストリート家具、そして広場のために特別にデザインされた三角形の帆のように光っている照明。それと有名な建築家、リチャード・メイエル、バウムシュラーゲル&エベルレ、ハディ・テヘラニ、クリストフ・インゲンホーヴェンなどによってデザインされた素晴らしいファサードと建物。これは我々のデザイナーのアイデアと見事に調和します。特に、スリムなフレームを持

つルシルとパッシオソファは自然にこの風景にとけ込み、撮影の最中、来場者がそれに座ろうとすることがよくありました。アウトドアライフは、今、大変トレンドイヤーです。それは自分の庭やテラスだけではなく都心の真ん中でもおなじ事がいえます。私たちはアウトドア家具について少し反省し、考え直す時期も来たのではないのでしょうか？安っぽいプラスチックのチェアに座るよりも、室内でも使える快適さを持つ品質のよい家具を選んだ方が良いのではないのでしょうか？

フィリップ・ニグロのルシルとフランスワール・アザンブールのグリアーージュは、アウトドアのみではなく、その快適さと美しいラインによって、インドア（室内）でも使うことができます。現在、「ウィンターガーデン」と「ガーデン・リビングルーム」の境界線が薄くなり、リーン・ロゼのコレクションは、「インテリア」と「エクステリア」の境目にあります。アウトドアライフを楽しむための耐久性も提供します。ハンブルグ市は2011年にヨーロッパの「グリーン首都」として任命されたことは、偶然のできごとではないでしょう。



Main picture: Seram table, Aluchair chairs, Maternity and Clover Pot flower pots. Top and right: Résilie chairs. Left: Grillage armchair.